

だんだん便り

第6号

2018年4月10日

一般社団法人だんだん会

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

- ・法人本部 0551-45-9566
- ・地域看護センターあんあん 0551-30-7505
- ・定期巡回てくてく24 0551-30-7787
- ・オレンジサロンわいわい白州・長坂 0551-45-9566

-
- ・グループホームわいわい白州 0551-30-7566

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023



写真に寄せて

桜季節はウキウキします。寒かった冬からの桜前線情報を元に標高の低い所から高い所へと1ヶ月間のドライブも楽しくなります。この八ヶ岳はまさにそんな所、住んでいてよかったと思うのは私だけでしょうか！！

撮影場所：高根町養福寺

投稿者：大泉町「たろべえ」

地域看護センターあんあん

1年間で23人の在宅看取りを行いました

＜あんあんの一年間の動き＞

昨年2月に事業開始した「地域看護センターあんあん」(訪問看護ステーション)は、あっという間に1年が過ぎました。この間の動きを紹介します。(2017年4月より2018年3月末)

◆総利用者数 87名

- ・1か月の新規利用者数(平均)6.6人

◆対象外となった利用者総数 32名

- ・死亡者 28名
- ・施設入所等 3名
- ・軽快 1名

＜死亡された方の場所＞

- ・死亡者総数 28名
- ・在宅で死亡 23名(在宅死亡率81%)
- ・病院他で死亡 5名

◆保険別利用者の割合

医療保険	36名(41%)	
介護保険	49名(59%)	合計 87名

◆保険別利用件数・収入の割合

	件数	収入
医療保険	55.8 %	66.6 %
介護保険	44.2 %	33.4 %

★2018年4月以降の看護師体制

研修中の職員も含めて、若手新人2名が仲間に。所長(管理者)も交代し、体制強化。
あんあん看護職は8名に！

所長(管理者)交代します

管理者を、『宮崎和加子』から『樋川 牧』に変更します

4月より「地域看護センターあんあん」の所長(管理者)となりました。療養の場は、病院ではありません。家族とともにまたは独居でも住み慣れた家で療養できるための医療・生活の支援をしています。あんあんスタッフはベテランが多くそれぞれ自立して看護にあたっていますが、問題がある時には解決のためいろんな意見が活発に飛び交います。この大切なスタッフを束ねていけるよう、また「定期巡回てくてく24」とも協力しながら頑張っていきたいと思えます。

＜最近チャレンジしたこと＞

3月25日に「渋谷・表参道 Women's Run」に出場しました。子供の頃から長距離を走るのには苦手で最後に走ったのは高校生の時。きっかけはあんあん看護師の浅見さんからの勧めで挑戦することにしました。天気快晴、桜も開花したこの日、表参道から明治神宮内10kmを走りました。なかなか走るのことができない街並みの景色や明治神宮内の空気の気持ち良さも手伝ってか…無事に完走できました。



定期巡回てくてく 24

介護・医療連携推進会議



平成29年10月に事業を開設以降3か月ごとに介護・医療連携推進会議を開催してきました。今回は年度末の3月28日、2回目となる会議には、13名の方の参加者で話し合いました。

会議の構成メンバーは、医療関係者を代表して訪問診療医・薬剤師・病院の地域連携室相談員、地域の方を代表して民生・児童委員の方、また介護支援専門員の皆さまと保険者に参加していただきました。

開設以来どんな状態であっても受け入れし、15名の登録者のうち、現在の利用者さん8名の状態が紹介され、一体型である当事業所は訪問看護と介護の連携の良さが評価されました。また、この事業をご存じない市民の方や、関係者に向けての周知が課題ではないかとのことご指摘もありました。

民生・児童委員会にも、事業の説明を得る機会を事務局に申し入れていきたいと思います。

次回は法制度の改正により、年2回になったことから9月を予定しております。

グループホームわいわい白州

運営推進会議の報告

平成29年度は6回の運営推進会議を開催してまいりました。

運営推進会議の構成メンバーは利用者さんと2名のご家族の方、地元地区の区長さん、民生児童委員2名と保険者・地域包括支援センターの方々と、会議を開催してきました。

この中で、開設間もないころの家族懇談会でご指摘のあった、近くの水路に側溝蓋がほしい、ホームの前の県道の往来が激しいので、横断歩道を設置してほしいという意見を検討、県や地元の区に相談することになって、側溝蓋が設置され、県道の路面に注意喚起の表示がされ、地元の安全協会から横断を注意する標識も建てられた成果も報告されました。

入居から一年が経過し、介護認定更新の結果、介護度が低くなるなどの改善評価されていることも報告、認定有効期間が最大3年に延長されることから必要に応じた更新を家族のご理解のもとに行うことも話題として検討されました。

インシデント・アクシデントの報告を行い、委員からも助言をいただき支援の振り返りにつなげていきたいと思います。

毎回の運営推進会議では、日々の生活の様子が写真で紹介され、入居者さんの笑顔に安堵したという声をいただきました。

グループホームわいわい白州

職員研修会 3月実施!

テーマ『**認知症の方の自立支援、頑張っていますか!?**』

講師:和田行男氏(認知症の方の“生きること支援”のプロ)

昨年3月、開設前に9日間の職員研修を行いました。“やって差し上げる介護”をするのではなく、“徹底した自立支援”を行うのに、職員は自分の『介護観』を変え、覚悟して支援させていたかどうかということを確認し合った研修でした。

その1日間を和田行男氏に担当いただき、人が生きること・その支援についての真髓についてたっぷりと講義いただきました。職員は、みんな和田氏の考えに共鳴し、『頑張ろう!!』と認識し、現場で切磋琢磨してきた一年でした。

<和田行男氏のプロフィール>

和田行男氏。NHKのプロフェッショナル『認知症介護の達人』として紹介された認知症の方の支援のプロ。知る人ぞ知る超有名な認知症ケアのプロ。

元国鉄マン。介護の業界に足を踏み入れたのは30年前。独特な個性と揺るがぬ『生きること支援』の本質を全国行脚しながら、『婆さんズ解放運動』と称する“認知症の方の生きること支援”の普及・運動活動を実践。様々な賞も受賞。(詳細は“和田行男”検索)

当法人の理事長の宮崎和加子とは、10数年来の『同志』。『大逆転の痴呆ケア』(中央法規出版、2003年初版)を共働で創り上げ、その後、全国の仲間とともに認知症の方々の生きること支援の実践を通し普及活動を行っている。

北杜には昔からよく来ていて『北杜仲間』でもあります。

1年を経過した“今”を見つめ直すための研修会を実施しました。

和田氏に質問したいこと・聞いてみたいこと・現場で困っていることなどについて、現場の職員から声を出してもらい、それについて丁寧に解説・考え方・方向性についての考えを学ぶ機会となりました。

主な質問事項

- ◆なかなか入浴しない方への支援の秘訣は?
- ◆毎日のように「家に帰る」という方への支援は?
- ◆職員を「おかあさん」と呼ぶのですが、なんと返事をすればいいか
- ◆メニュー会議の仕方は? いろいろ工夫しているが入居者から「これが食べたい」となかなか出てこない。自主的に希望や意見がどんどん出てくるよう秘策は?
- ◆「見守り」と「見極め」の違い etc.

和田氏の講演の主な項目

- ・介護の仕事とは・・・缶詰を作る仕事ではない。常に自問自答
- ・自立支援・・・難しく面倒くさく、だからおもしろい
- ・マニュアルは必要か?
- ・「できる職員」「できない職員」はおかしい
- ・その人の支援で大事なものは『優先順位』
- ・「うそ」と「方便」は別。「うそ」はダメ。「方便」はあり。
- ・常に起こることを予測して先手を打つ。
- ・「事実真実」と「実感真実」。どちらも真実。
- ・「悩む」は平面、「考える」はらせん階段。考えよう。
- ・職員は、自分の感情を表現していいのか?
- ・プロの支援者とは・・・プロを目指そう

グループホームわいわい白州

研修を受けた介護職員の声・感想



人は、どんな人でも人間関係を深めていけるという言葉が胸に突き刺さりました。うまくいかないことは普通であって、どのように関わって仕事をするか、自分自身の感情をコントロールし、入居者さんにとって心地よい居場所を作っていけるか、新たな気持ちで再スタートしたいと思った。

職員の質問に答える形だったので、日々悩んでいることがどんどん解決されて気持ちが楽になった。また「頑張ろう」

分かったこと。「支援は、常に考え続け、試していき、知ろうとすること」

介護の仕事を始めてする私には新鮮で興味深く、多くのことを学ぶことができた。

1人1人をよく知る努力をしながらとても嬉しく幸せな時間を過ごさせてもらっています。

「葛藤しても、解決に向かえるチームがあればしっかりと基盤は成り立つ」。その基盤がブレないようにしなければならぬと思いました。

「ユニットリーダーの質がそのユニットの職員のカラーにでる」と言われ、まさに矢が脳みそに刺さった！！

「ここに居る」ことの意味や目的が実感できる支援が重要という言葉が胸に響きました。できないことをそのままにせず、すべての入居者さんとゆっくりお話を聞き、多くの入居者さんが発信できるように支援していきたいと思います。

入浴・トイレの声掛けは難しい。簡単にできると思うな。“ていねいに”“無理せず”“策をもって”“響きあうことを見つける” そうですね。

講義の中で何度も「自分たちもそうやん」と言われたのがとても印象的。最近グループホームで働くようになり、良い介入・支援って何だろうと考えることが多かったが、“認知症の”人にとらえてしまっていたのかなあと気づきました。認知症の前に“人”ですね。

ややもすると、はじめから「認知症の方」という目で見えてしまいがちです。そのことが自立を妨げたり、自由を奪ってしまう危険性があるということを改めて認識しました。

以前の職場で、与えられた仕事をこなし時間だけが過ぎていましたが、ここで「介護」ではなく「支援」に挑戦し、自分で考える・行動する現場は難しいと思いました。でも、生きているいろいろなことを体で吸収・体感して毎日を送っている。「考えて行動する力」を。頑張ります。

ケンカしたことは忘れる。でも感情は残る。まさしくその通り



法人本部よりお知らせ

理事会開催

2018.3.25 だんだん会の理事会を開催し、2018年度事業計画・予算を承認しました。その主な内容は以下の通りです。

介護保険関連事業

< 3つの事業の安定化・推進に向けて >

グループホームわいわい白州

入居者 18 名に、ご自分らしい生き方ができるように職員一同さらに頑張っています。一年間で入れ替わったのは 1 名だけです。待機者 13 名です。

地域看護センターあんあん

どのような状態の患者・利用者も受け入れて、ご本人の自己決定を重視し、ご自分の最高の人生を生ききる支援を実行します。利用者増に備えます。

定期巡回てくてく24(看護強化型サービス)

利用者が増えています！たぶん地域にとってなくてはならないサービスになるであろうこのサービス。どんな状況の人でも、即時・回数応需・重症者OKのサービスをさらに充実していきます。

地域共生事業(非収益事業)

収益を目的とせず、多様な地域共生事業に取り組んでいきます。

◆サロン活動(住民の皆さんの居場所作り)

①オレンジサロン(認知症カフェ)

白州と長坂で実施しているサロン活動をさらに充実し、地域の必要時応新たな地域での開催を検討。

②サロン『わたしの茶の間』の開始

根っここの会(市民の主体的な活動)主催の新たなサロン活動の実施。

◆地域共生市民講演会

・『在宅ホスピスボランティア入門講座』開催

・『自分らしく上手に老いるために』今後開催予定など

その他、時機を見ながら新規事業を行います。

職員紹介

二足の草鞋(わらじ)で頑張っています！

介護保険請求事務・介護職員 坂本純子さん

生まれは、北杜市高根町。現在は甲斐市在住。10数年間は、医療事務・介護保険請求事務の仕事で診療所や訪問看護ステーションに勤務していました。この度、だんだん会とご縁があり昨年4月から働いています。両親の高齢化に伴い、介護の勉強をしておこうと、「介護職員初任者研修」を終了し介護職としての資格を取得しました。

それで、4月から9月までは、主に「グループホームわいわい白州」で介護職として勤務。介護の仕事は初めてで、認知症の方々への支援がうまくできるかがとても心配でした。それ以前は、認知症の人は病気だから何もできないものだと思っていましたが、9日間の「自立支援」の研修を受け、その上で現場で実践して分かったことは、“認知症の人は、病気がもとになってはいるが生活障害(自分自身の力だけでは日常生活を送るのが困難)の方なんだ。だから私たち介護職の支援が必要なんだ”ということ。グループホームでの実践は、“とにかく楽しかった”“支援させていただき学ぶことが多かった”“自分自身の考え方・人生観・生活観が変わった”でした。

現在は、法人本部の事務所で『地域看護あんあん』『定期巡回てくてく24』の職員といっしょに仕事をしています。3つの事業所の保険請求事務職として、また『てくてく24』の介護職員として、臨機応変に働いています。

毎日がやりがいがあり楽しいです。私のモットーは、『縁の下で力持ち』。他の職員を支えつつ、自分自身もプロを目指して頑張ります。



素敵なしデイをお二人、紹介します！！

板山はつ子さん

(92 歳)



杉本かじ子さん

(93 歳)



はつ子さんはいつもベッドの上にきちんと正座をして満面の笑顔で迎えてくださいます。はつ子さんは、8 人きょうだいの長女として生まれ学校を出てから家業の農作業を手伝い、若いころはお花屋さんで働きました。21 歳で嫁いで 6 人の子供を育てながらトマトレタスを栽培して篤農家で表彰されたこともあるそうです。そんな中、火事で家が全焼します。貧乏のどん底。家計を支えるために、よく働きました。64 歳で夫を亡くし、70 歳の時に跡取りの長男を 50 歳で亡くしました。とにかくたくさんの苦勞をしてきました。今は長女さん一家の大家族のなかで穏やかに暮らしています。娘さんは言います。「90 過ぎた母を看て居るといつその日が来るのかと考えてしまう。母との一日一日を大切にしたい。」はつ子さんは洗面やトイレなど自力でできることはなるべく娘さんの手をかりないように頑張っています。はつ子さんのこれまでの生きてこられた道を思いながらはつ子さんが安心して生活できるように寄り添っていきます。

杉本かじ子さんは、3 年前に次男さんと暮らすために沼津から移住して来られました。手先がとても器用な方で着物や洋服を縫ったり、パッチワークなど手芸品もたくさん作って来られたようです。今でもちょっとした小物を作ったり、次男さんの洋服の繕い物などお手のものです。

医師の指示で血圧の管理とフットケアを目的に訪問看護を行っています。足に魚の目が数か所できて痛みが強く浮腫もありましたが、足浴をして丁寧に足のマッサージを行うことで痛みもなくなりました。

フットケアを行いながら戦前、戦中、戦後の激動の時代を生きて来られたかじ子さんのこれまでの物語を伺うことができます。一言では語りえない波乱万丈な人生です。「かじ子さんはどうしていつもそんなに素敵な笑顔でいられるのですか？」

かじ子さんは言います。「あのね、なにがあってもよくよしないことよ」そう言い切る凛としたそのお姿に感動です。かじ子さんの笑顔にエールを頂いています。

地域看護師の役割は「その方の暮らしの場所でその方が自分らしく生きることができるように応援団として最高の支援をする」という役割があります。

利用者の方が今できていることを上手に続けていけるように。まだ発揮できていない回復力を最大限に引き出せるように。予防的なことも含めて看護を提供していきます。でも今回ご紹介した素敵なお二人のように私たち地域看護師が利用者さんから応援して頂くことが働きの原動力になっています。利用者さんの生きてきた物語、生きる姿は、私の行く道のお手本でもあります。なんと有難いことかと日々感謝しながら今日も訪問車を走らせます。

<地域看護センターあんあん 看護師 浅見玲子>

応援します！ 手伝います！ 寄付します！

法人の長坂事務所がいつもきれいなのはこの方のおかげです！

高根町在住 伊藤哲朗さん

北杜市高根町にお住いの「伊藤哲朗さん」

だんだん会との出会いは、事務所周辺の雑草が伸び、それぞれ事業に忙しくしている職員にはそこまで手が回らず、雑草の丈の伸びることも気になりながら、どうすることもできなかった私たちの前に現れたのが「伊藤さん」でした。

職員の知り合いから紹介されてきた伊藤さん。女性ばかりの事務所で「気が引けるなあ」と照れ臭そうに笑っていたのが印象的です。



仕事はピカー！

雑草で埋もれていた事務所が見違えるほどにきれいになりました。救世主のような存在でした。このことがご縁で様々なお話をしながら繋がりができました。

若い頃の苦労話、お父さまの介護経験、そしてそれが縁で介護の資格を取り、介護の仕事も経験されて、法人の『だんだん便り』に感銘し、70歳を迎えた今、リサイクルの仕事とボランティア活動をして充実した毎日を過ごされています。

楽しみにしているのは、“映画鑑賞”。特に邦画。最近観たのは「北の桜守」でした。



回収目標1億個

回収目標1億個を目指して、アルミ缶やスチール缶、そして段ボールの回収。当法人もこの回収に協力させていただき、(というよりは回収していただきとても助かっています)、収益金は市内の保育園・小学校・福祉関係の施設へ還元し役立ててもらっているとのこと。

だんだん会とはこの環境整備とリサイクルを通じて絆ができ、伊藤さんは職員の使命観と笑顔に励まされていると話されています。

華奢な体で力仕事はきついと思われますが、朝早くから活動し、好きなタバコもやめて健康づくりに心がけ働けることを喜びに毎日頑張っています。

聞き手 中嶋登美子（理事）